

イヌについての誤った認識をCHANGE!



寿命を延ばすための基礎知識を解説。 老舗動物病院、藤井院長の 長生き“ワン”ポイント講座

愛犬に長生きしてもらいたいと思うなら、真っ先に考えるべきはやはり健康。そもそもイヌの体ってどうなっているの？ 長寿のために飼い主が本当に気を付けるべきこととは？ 現代を生きるペット犬たちの衣・食・住・遊の実態をよく知る獣医師藤井康一先生に、飼い主が知っておくべき基礎知識を解説してもらった。

最近の小型犬ブームにより、イヌを飼う人が増え、診察に訪れる動物もイヌが圧倒的に多いと語る藤井康一先生。そんな飼い主たちの中には、少しでも良い動物病院を見つけるために、あちこち渡り歩く人も多いと話す。

「セカンド・オピニオンを求めるのは、もちろん悪いことではありません。しかし、初めての病院では過去の診療記録がないので、必要な検査を受けさせることになりかねません。改めて診療させることは、イヌにとってもストレスになりますよね。できるだけ早く、飼い主が信頼の置ける主治医を決めて、その先生に何でも相談できる環境を作ることが、イヌの健康にとって大切だと思います」

加えて、予防接種を受けた日付、病気、そのときの症状、食事の内容、体重など、飼い主が、愛犬の成長記録を残しておくこと、例えば、引っ越しなどで主治医を変えざるを得ないときに便利だ。

さらに、愛犬の長寿を考えるならば、飼い主には基本的なルールをしっかり守ってもらいたいのだと、藤井先生は続ける。

「まず、居住している市町村にきちんとイヌの登録を届け出て、生きている間は毎年更新しましょう。合わせて、狂犬病予防接種を受けさせることも大切。最近は狂犬病の予防接種率が著しく低下していて、このままでは、万が一ウイルスが入ってきたとき、感染が広まってしまう危険性が高まっているんです。愛犬とともに人の命を守るためにも、重要なことなんですよ」

3 衣・食・住・遊へのこだわりが愛犬の寿命を左右する

衣 元々の生息地を考慮し季節に合った衣服を着せる

メキシコが原産国のチワワをはじめとする小型犬は、一般的に寒さに弱く、低血糖・低体温になりがち。逆に、北方で生まれた犬種は大型犬が多く、暑さが苦手。そうしたイヌの特性に合わせて、小型犬は冬の時期に保温性のあるものを、大型犬には夏にできるだけ涼しく過ごせる衣服を着せることが効果的。また、夏の日中に散歩へ出掛ける場合、小型犬であっても暑さ対策は必須で、最近では、それらの要求に応える高機能なイヌの服が登場している。

P100~

食 肥満にならないためのヘルシーな食事を与える

信頼できるメーカーの品質の良いフードを与えていれば、まず問題はない。しかし、中には市販のフードを好まないイヌもいる。そんなときは、レシピ本などを参考にしながら、栄養バランスを調整できる手作り料理がお勧め。特に注意したいのは、肥満にさせないこと。人間だけでなく、イヌにとっても肥満は生活習慣病につながる大問題だ。おやつをあげたら、その分の食事を減らすなどしながら、栄養価が高くヘルシーな食事を与えたい。

P102~

住 病気を寄せ付けない清潔な室内環境をキープ

最初から室内で飼っているイヌは抵抗力が弱いので、エアコン、除湿機などを使って、暑さや寒さの対策を行うことが重要。最近では吸引性のアレルギーやアトピーを発症するケースが増加しているので、イヌのためにも空気清浄機は必須。さらに床を、掃除しやすく、オシッコをしてもシミになりにくいフローリングにしたり、抗菌マットを敷くなど、家の中を清潔に保つことが必要だ。そんな、イヌの健康につながる住まいとは？

P106~

遊 運動不足解消のため毎日の散歩は欠かさず

飼い主と遊ぶことは、イヌにとって最大の幸せ。遊びの中でも最も大きなパートを占める散歩は、イヌの健康のためにもたっぷり時間をとってあげたい。小型犬の場合、外に出さない飼い主もいるが、痴呆を防ぐためにも外に出し、さまざまな環境に触れさせることが重要だ。その際、イヌ同士のケンカや事故防止のため、リードを必ず付けること。夏は暑さ対策を行い、こまめな水分補給が必須だ。その他、知っておくべき散歩の心得などを紹介する。

P110~



こうやって「なでなで」するだけでも健康状態が分かるものなんですよ

藤井動物病院 院長 藤井康一氏
麻布大学を卒業し、ペンシルベニア大学獣医学部に留学後、藤井動物病院勤務。1997年より院長に。これまで診察したイヌは数知れず。人間と動物がいっしょに暮らすことによる互いの触れ合いが、ストレスやうつ病が軽減するなど、双方に精神的かつ身体的によい効果をもたらす治療法「ヒューマン・アニマル・ボンド」の普及を目指す

1 愛犬の健康を維持するためには常にカラダの状態をチェック

イヌは言葉が話せない。だから、体調管理は飼い主が日々の触れ合いや、グルーミング中に、チェックすることが大切だ。ここに紹介する6つのチェックポイントを参考に、愛犬の様子がおかしいと思ったら、早めに獣医師に相談したい。

Check Point 1 目
頭をなでるついでに、左右の目を見比べて、片方から異常なまでに多量の目ヤニが出ていないか、充血してないかを、細かくチェック。ちなみに老犬の目が白濁している場合は、視力を失っている可能性が高いので注意したい

Check Point 2 鼻
鼻水や鼻血は要注意。ニオイを嗅いだとき異物を吸い込んでしまい、鼻の内部が化膿している可能性があるからだ。特に秋は、草むらで植物の実などを吸い込みやすい。鼻が乾燥している場合は「犬ジステンパー」などの感染症の疑いがある

Check Point 3 口
大切なのは歯磨き。毎食後のブラッシングで歯槽膿漏を防ぐと、寿命を約2年延ばせるといわれている。子イヌのときは歯磨きをしてあげること。口の中に飼い主の手を入れさせる習慣を付けければ、誤飲した異物を取り出すときにも安心だ

Check Point 4 肉球
アスファルトの路面を歩く機会が多い場合、肉球が硬くなりがち。乾燥している場合は保湿クリームを塗ってケアをしてあげたい。さらに、手足も関節の曲げ伸ばしをしてスムーズに動かすチェック。痛がるようであれば、関節炎の危険がある

Check Point 5 皮膚
グルーミングする際、最も飼い主が異常を発見しやすい部分。被毛のハゲ、かさぶた、しこりなどを見つけたときは、すぐに動物病院へ。また、被毛にツヤがなかったり、フケが多かったりする場合は、体調が悪い証拠なので気を付けたい

Check Point 6 肛門
肛門の周囲がキレイか、活やく筋が締まっているかを確認。肛門周囲の肛門腺に分泌液がたまり、腫れたようになる。お尻を地面にこすり付けているときは、この症状の表れなので、分泌液を絞ってあげることが大切だ

2 病気の感染から守るために受けさせるべき3つの予防接種

●混合ワクチン [生後2~3カ月/以降、年1回]
犬ジステンパー、犬パルボウイルス感染症、犬伝染性肝炎など死亡率の高い病気を防ぐ。数種類のワクチンを混合した予防注射。ワクチンの種類は居住地域によって異なり、通常、生後2~3カ月で1回、以後3週間おきに2~3回。その後、年1回の接種が必要だ

●狂犬病 [毎年1回]
イヌだけでなく人間を含む哺乳類に感染し、発症するとほぼ100%死に至るといえる恐ろしい病気。日本では1960年代以降発生していないが、外国犬種の行き来が活発な現在、再び発生の危険性が高まっている。狂犬病予防法により、年1回の接種が義務付けられている

●フィラリア [毎年4~12月]
蚊によって媒介され、イヌの体内で生育しながら心臓や肺動脈にたどり着く、寄生虫による病気。放置すると死に至る。蚊は気温15℃以上になると吸血活動を開始するため、蚊が活動を開始する1カ月後から活動停止後1カ月まで、毎月の投与が欠かせない

